

長期戦略:テーマ 「地域に密着したキャンパス」

提出日 2022年 8月 24日

担当部署

Ⅱ.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	小野総合企画部長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	西宮聖和キャンパス事務室
-----------------------	---------------------	---------------	--------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
7-(4)-① 地域住民・社会人への新たな提供プログラムの検討・実施	2019年度	2021年度	必要なし	不要
<p>内容</p> <p>目的 聖和キャンパスには4つの学校(関西学院大学教育学部、関西学院大学大学院教育学研究科、聖和短期大学、関西学院幼稚園)が設置され、キリスト教主義に基づく教育が行われている。大学・短期大学では教員、保育者の養成を目的に掲げ、卒業生の多くが学校、保育園等教育機関に就職している。そこには関西学院の建学の精神「キリスト教主義に基づく全人教育」、ミッション「“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成」に加え、2009年に合併した聖和大学の建学の精神「神の愛を知り、イエス・キリストが示された生き方にならい、他者——特に幼い者や社会的に弱くされた者たち——に仕える働き人を養成する」、スクールモットー「キリストに心を向けて」「キリストの働き人を育てる聖和」が受け継がれ、特に「子ども」をキーワードとした「真に豊かな人生」に寄与する営みが展開されている。また自治体や住民と連携して地域における子ども・子育て支援も行ってきた。この聖和キャンパスの特性を活かし、地域住民、本学卒業生も含めた社会人へ提供するプログラムの充実をはかり、「地域に密着し、地域に根差した聖和キャンパス」をめざし、多様な教育サービスを有する本学・学院の付加価値、ブランドイメージの向上をはかる。</p> <p>内容 聖和キャンパスのシーズを活かした新しいプログラムを、地域のニーズに合わせて計画し実行していく。2019年度計画している内容は次のプログラム。</p> <p>① リブラ・アクティビティ・アウトリーチ・プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が、2017年度開設した聖和ラーニングコモンズ「リブラ」のアクティビティとして、学校現場の新たな教育課題(プログラミング、国際理解、ピオトープ等)からテーマを設定し、子ども達への教示方法を開発し、近隣の小学生等をキャンパスに招き提供する。(第一段階) ・更に、地域教育機関(教育委員会、学校等)と連携し、開発したプログラムを学外へアウトリーチしていく。(第二段階) <p>② 学び・アウトリーチ・プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が、授業(教育課程、教職課程)で学び、得た知識、技能、能力を、社会のニーズに応じてプランニングし、近隣の子ども達をキャンパスに招き提供する。(第一段階) ・更に、阪神間(西宮市を中心に)の自治体等と連携し、プランニングしたプログラムを学外へアウトリーチしていく。(第二段階) <p>プログラム1) 子どもへの読み聞かせプログラム1:ブックスタート的立場から、親の個人的関心の違いに関わらず、全ての子ども達に平等に本に出合う機会を創出し、真に豊かな人生への第1歩を提供する場としてプランニングする。</p>				

プログラム2) 子どもへの読み聞かせプログラム2: 聖和大学の創設者の一人、M・I・ラバースは「貧困と教育」を念頭に活動し、被差別地域での保育活動にも心を寄せ行動していた。現在、貧困により絵本が無い家庭も存在しており、「貧困と教育」の今日的問題への対応としてプランニングする。

プログラム3) 外国ルーツ家庭の子どもへの自習支援プログラム: 社会的ニーズから外国から労働者として来日した人々の子どもたちが、教育を受ける保証は得ても、言葉の壁等により通常の学校での学びについていけず、教育を受ける機会を断念させないためプランニングする。

③ キリスト教・聖書エンカウンター・プログラム

- ・キリスト教教育・保育研究センターが保管する未整理のキリスト教・聖書等に関する資料を展示・催事等で活用できるよう整理する。(第一段階)
特に聖書を題材にした100年を経て保管されている1000点以上の聖画(当時、アメリカで作成された国際統一教案に基づく聖書の話学ぶため、毎週子どもたちに見せていた印刷画。特に現品は掛け軸にして保管されていたためカラーの印刷が鮮明に残されている。)は、子どもはもちろん、年齢に関係なくキリスト教や聖書との出会いに導く魅力のある資料である。始めの整理の対象は、この聖画とした。
- ・整理された聖画を題材にし、聖和キャンパス内で、一般公開にて礼拝を行う。(第二段階)
- ・整理された聖画を、聖和キャンパス内に常設的に展示し、在学生とキリスト教や聖書との出会いの機会を設けると共に、一般公開の展示会も計画する。(第三段階)

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	提供プログラム数	2019年度より提供するプログラムの総数
指標2	提供プログラムの満足度	2019年度より提供する各プログラムへの参加者の満足度 <アンケート回答時に「満足」+「やや満足」と回答>

目標1<指標1>新規プログラム(社会人・地域住民向け)数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	10件	20件	30件			
実績	6件*	2件	7件			

目標2<指標2>新規提供プログラムの満足度

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	90%	90%	90%			
実績	未実施	未実施	85.3%			

※2019年度「アカデミックデイ」として6つのプログラムを開催予定であったが、コロナウィルス感染症拡大の懸念から、直前に中止を決定したため、「未実施」となった。

2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
① リプラ・アクティビティ・アウトリーチ・プログラム	策定段階	05 月 WG 設置 08 月 2019 計画決定 09 月 学生メンバー決定 01 月 実施、検証 03 月 次年度計画	04 月 2020 計画決定 04 月 学生メンバー決定 12 月 実施、検証 03 月 次年度計画	04 月 2021 計画決定 04 月 学生メンバー決定 12 月 実施、検証 03 月 次期計画		
	2023 年 3 月 末段階	第一段階については、3 月にアカデミックデイとして実施予定。第二段階については、学外にアウトリーチできるプログラムを検討する。	第一段階については、コロナ感染症拡大の為、キャンパスでの開催だけに固執せず、オンライン上での開催も含め、新たなプログラムの形式を検討する。	オンライン形式を含めた新たなプログラムの実施を検討する。	通常業務として取り組む	通常業務として取り組む
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階					
	2023 年 3 月 末段階	通常業務として取り組む	通常業務として取り組む	通常業務として取り組む	通常業務として取り組む	
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
② 学び・アウトリーチ・プログラム	策定段階	05 月 WG 設置 08 月 2019 計画決定 09 月 学生メンバー決定 01 月 実施、検証 03 月 次年度計画	04 月 2020 計画決定 04 月 学生メンバー決定 12 月 実施、検証 03 月 次年度計画	04 月 2021 計画決定 04 月 学生メンバー決定 12 月 実施、検証 03 月 次期計画		
	2023 年 3 月 末段階	第一段階については、アカデミックデイや子どもセンターのプログラムとして実施予定。第二段階については、学外にアウトリーチできるコンテンツを抜本的に再検討する。	新しい生活様式に合わせた新たなプログラムの開催方法を検討する。	オンライン形式を含めた新たなプログラムの実施を検討する。	通常業務として検討	通常業務として検討
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階					
	2023 年 3 月 末段階	通常業務として検討	通常業務として検討	通常業務として検討	通常業務として検討	

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
③ キリスト教・聖書エンカウンター・プログラム	策定段階	05 月 WG 設置 08 月 2019 計画決定 09 月 整理手順決定 12 月 礼拝実施、検証 12 月 学内展示 12 月 学外展示 03 月 次年度計画	04 月 2020 計画決定 (整理随時継続) 12 月 礼拝実施、検証 12 月 学内展示 12 月 学外展示 03 月 次年度計画	04 月 2021 計画決定 (整理随時継続) 12 月 礼拝実施、検証 12 月 学内展示 12 月 学外展示 03 月 次期計画		
	2023 年 3 月 末段階	第一段階として、おもちゃとえほんのへやに専用の展示棚を設置し、季節に応じた聖画を展示する。第二・第三段階については、保存の観点から抜本的に再検討する。	第一段階として、おもちゃとえほんのへやに設置した専用の展示棚に、季節に応じた聖画を展示する。	第一段階として、おもちゃとえほんのへやに設置した専用の展示棚に、季節に応じた聖画を展示する。併せてルーティン化することも視野に入れて検討する。	通常業務として検討	通常業務として検討
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階					
	2023 年 3 月 末段階	通常業務として検討	通常業務として検討	通常業務として検討	通常業務として検討	

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	左記以降
非公開							

4. 進捗状況・得られた成果

2019年度	3月の「アカデミックデイ」に向けて、9月からチーム作り、企画書作成を始め、約60人の学生がイベント企画・広報・運営等学ぶことができた。残念ながらコロナウィルス感染症拡大により、「アカデミックデイ」の中止を余儀なくされたが、多くの子ども達から参加申し込みがあり、近隣住民や小学校からのニーズや学生達への期待は十分感じることができた。
2020年度	小学生対象（3年生以上）のワークショップを2つ（リモート形式1、対面形式1）を実施した。しかしながら2019年度同様に、地域の子供たちも参加できる企画としての「アカデミックデイ」については、新型コロナ禍に伴う各種活動制限や開催リスクがあるため開催はできなかった。その他、実施計画とは直接的な関係はないが、新型コロナ禍の状況の中、子どもセンターでは2つのWeb配信講座、対面で2つの保護者講座、地域での子育てサポートを実施するなど、規模は小さいが様々な地域貢献事業を実施した。
2021年度	「アカデミックデイ」を11月（13日・14日・27日の3日間）に対面開催にて、4プロジェクト（3グループ、うち1グループが2プロジェクト実施）で計6回（2プロジェクトが2回実施）、2022年3月は新型コロナウィルス感染拡大のためオンライン開催にて、3プロジェクト（3グループ）各1回で計3回の合計9回、未就園児・小学生対象のワークショップを開催し、未就園児を含む多くの子どもたち（合計84名）が参加した。参加した子どもたちにも良い思い出や経験となった他、子どもたちや保護者の方々からも好評を得た（参加者アンケート結果）。また、ワークショップを企画・運営した学生達にとっても、彼らの自主的な探求活動を行った成果発表を子どもたちが参加するワークショップで行うことにより、学校教育・保育の枠組みを超えた学び・育ちを支える実践を行い、教育者・保育者としての資質向上を図ることができた。また、「学び・アウトリーチ・プログラム」、「キリスト教・聖書エンカウンター・プログラム」の2つについては、2021年度まで実施できなかった。なお、「リプラ・アクティビティ・アウトリーチ・プログラム」はコモンズ活性化の活動・業務の一環として実施してきおり、2022年度以降は、通常業務として継続して地域住民等へのプログラム提供に取り組んでいく。

5. 今後の課題及び方向性

2019年度	聖和キャンパスのシーズを活かしたプログラムを、地域のニーズに応じて実施していく。第一段階として、近隣の子ども達を「アカデミックデイ」等により聖和キャンパスに招き、学生が授業で学んだ知識や技能を提供する。第二段階として、開発したプログラムを学外へアウトリーチしていく予定であるが、関西学院が提供するプログラムとして相応しいレベルに達しているか、検証が必要である。
2020年度	近隣の子ども達をキャンパスに招き、ワークショップを行う「アカデミックデイ」を中心に計画をしてきたが、コロナウィルス感染症拡大下においては、これまでのやり方では実施が難しいため、オンラインの使用等新たな方法を検討する必要がある。また、聖和キャンパスでは、様々な部署や学生が地域貢献事業を行っている為、2022年度以降、新たなアプローチで地域貢献企画を支援していくことを検討したい。
2021年度	新型コロナウィルス感染症の収束が見えないが、予防対策をとりつつ、可能な範囲で「アカデミックデイ」を開催するように準備を進める。また、これまで「アカデミックデイ」は年度末だけの開催であったが、2021年度は大学祭の1企画として組み入れ、大学祭、さらにブラッシュアップして年度末開催、と年間を通した活動を行う仕組みづくりを摸索する。なお、大学祭、年度末ともオンライン形式でも開催可能な企画となるよう併せて検討する。また、継続実施している地域貢献企画も加え、聖和キャンパスとして永続的な実施方法の検討を行う。

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	聖和キャンパス内のシーズを活かしたコミュニティ・アウトリーチの新プログラムの実施を認めます。 ただし、備品、交通費・保険費や消耗品・会議会合費は、ガイド内で対応してください。 なお、業務委託費については、具体的な委託内容が決定した後に、将来構想推進 WG での承認を得た上で、予算外申請してください。
2019 年度	聖和キャンパス内のシーズを活かしたコミュニティ・アウトリーチプログラムの実施を認めます。ただし、消耗品費・会議会合費については、ガイド内にて対応してください。
2020 年度	聖和キャンパス内のシーズを活かしたプログラムの実施を認めます。ただし、消耗品費・会議会合費については、一般事業ガイド予算で対応してください。

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・西宮聖和キャンパスにおいて、周辺住民・子供たちを招き「アカデミックデイ」を実施した。 ・アウトリーチ、エンカウンタープログラム等、コロナ下では実施が難しい状況である。実施計画内容の大幅修正が必要。あるいは、実施計画としてではなく、通常事業とする方向で、検討することも必要。 	継続 ・ <input type="checkbox"/> 廃止	・同左